

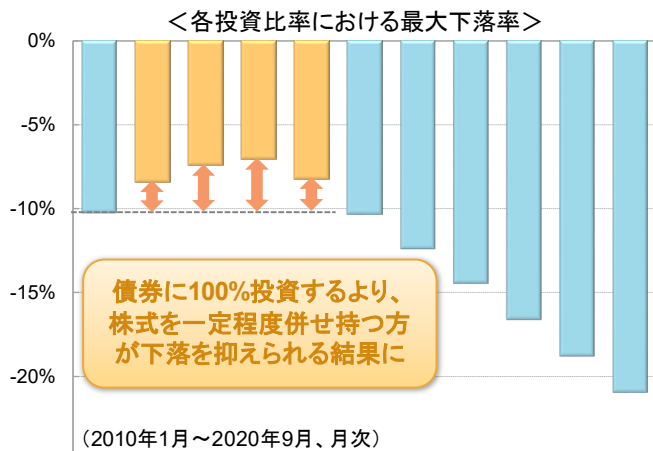
# 株式投資に抵抗がある皆様へ ～株式を併せ持つことで下落を限定的に～

世界を見渡すと、いくつかの不透明要因が存在するのはよくあることです。足元でいうと、新型コロナウイルスの感染再拡大や、米中問題、米大統領選挙の行方などが、不透明要因として挙げられます。このような環境下では、「株式は何かあったときの大幅な下落が怖い。値動きに安定感がある債券の方がいい」と考え、株式への投資を躊躇する方も多いのではないのでしょうか。なるべく下落を避け、安定性を重視して投資するならば、債券だけに投資するのがいいと考える方もいるかもしれません。しかし中長期の投資においては、実は、投資資産の一定程度を株式に配分することにより、資産全体としての下落を限定的にすることができます。

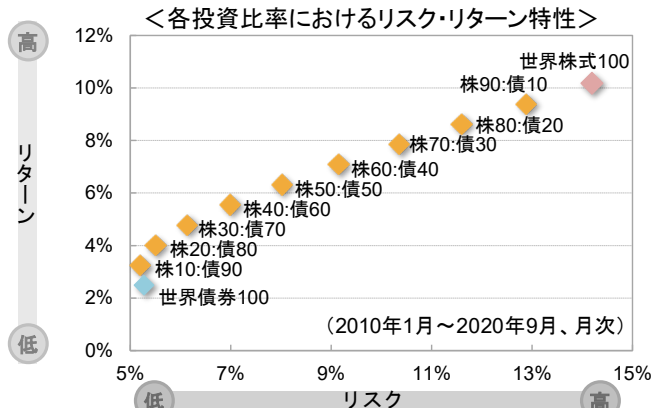
コロナショックを含む期間である、2010年1月～2020年9月のデータをもとに振り返ってみると、世界債券に100%投資した場合と比べて、40%程度までなら、世界株式にも資産を振り分けた方が、分散効果が働き、期間中の最大下落率を抑えられたことが確認できます。たとえば世界株式への投資比率を40%、世界債券への投資比率を60%とした場合の最大下落率は▲8.2%と、世界債券の最大下落率▲10.3%に比べ、下落を抑えられています。また、リターンに目を向けてみても、世界債券のみに投資する場合と比べ、世界株式を併せ持つ方が高いリターンを獲得できました。つまり、配分次第ではあるものの、株式を活用することは、最大下落率を抑えつつ効率的なリターンの獲得をめざすための有効な手段であると言えます。

たしかに株式の価格変動は債券よりも大きくなるのが一般的です。また、日々、新聞やテレビで好悪様々なニュースが取りざたされる中、その時々個別資産の値動きに一喜一憂してしまいがちです。しかし、未来のための長期的な資産形成を考えた場合、株式や債券など個別資産の価格よりも、運用資産全体としての値動きに目を向け、投資を行なう必要があると考えられます。今まで株式への投資を怖いと考えていた方々も、下落が怖いからこそ、あえて株式に投資する投資信託を検討してみたいはいかがでしょうか。

## 債券のみに投資するよりも下落が限定的に



## 株式を併せ持つことでより高いリターンを獲得



## ＜各投資比率における運用効率(リターン÷リスク)＞

投資比率	運用効率
世界債券 100	0.47
株10:債90	0.63
株20:債80	0.73
株30:債70	0.78
株40:債60	0.80
株50:債50	0.79
株60:債40	0.78
株70:債30	0.76
株80:債20	0.74
株90:債10	0.73
世界株式 100	0.72

株:世界株式、債:世界債券

世界株式はMSCIワールド指数(配当込、米ドルベース)、世界債券はFTSE世界国債インデックス(米ドルベース)

世界株式と世界債券を各投資比率ごとに投資し、毎月リバランスしたものと算出

リターンは月次リターンの平均を年率換算したもの、リスクは月次リターンの標準偏差を年率換算したもの

(信頼できると判断した情報をもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

■当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。